

## 平成 30 年 7 月実施 生徒による授業評価 まとめ

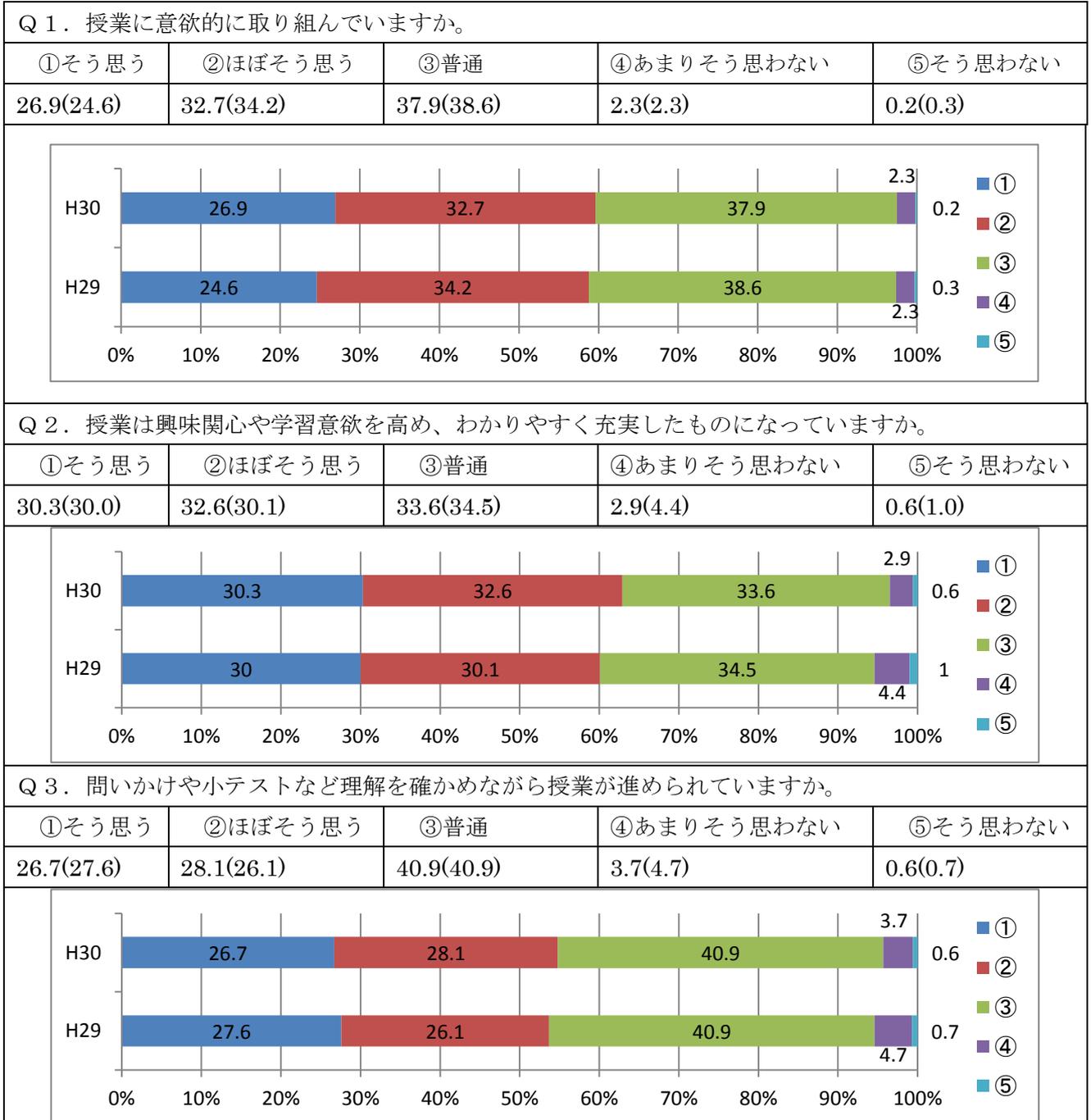
木曾青峰高等学校

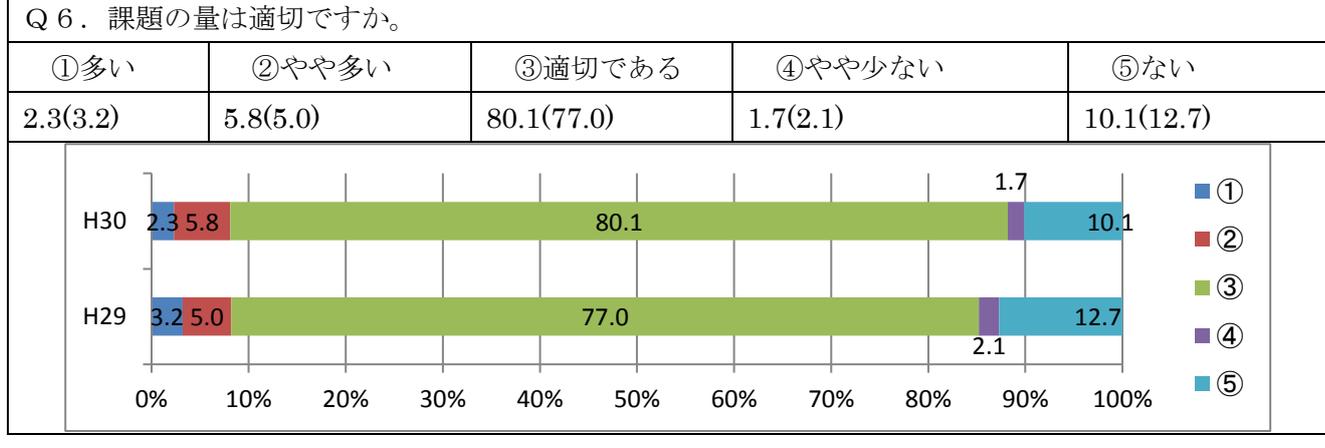
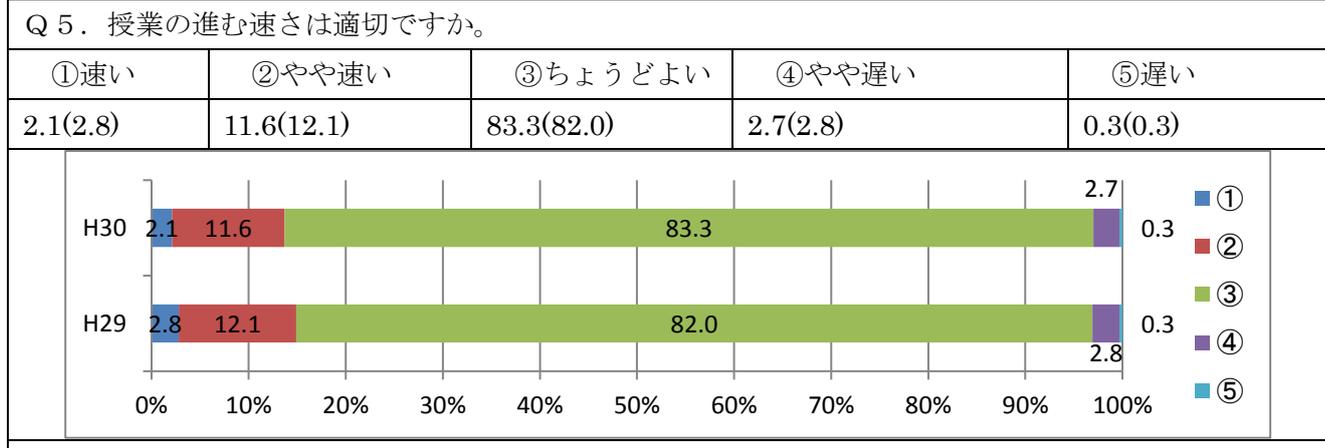
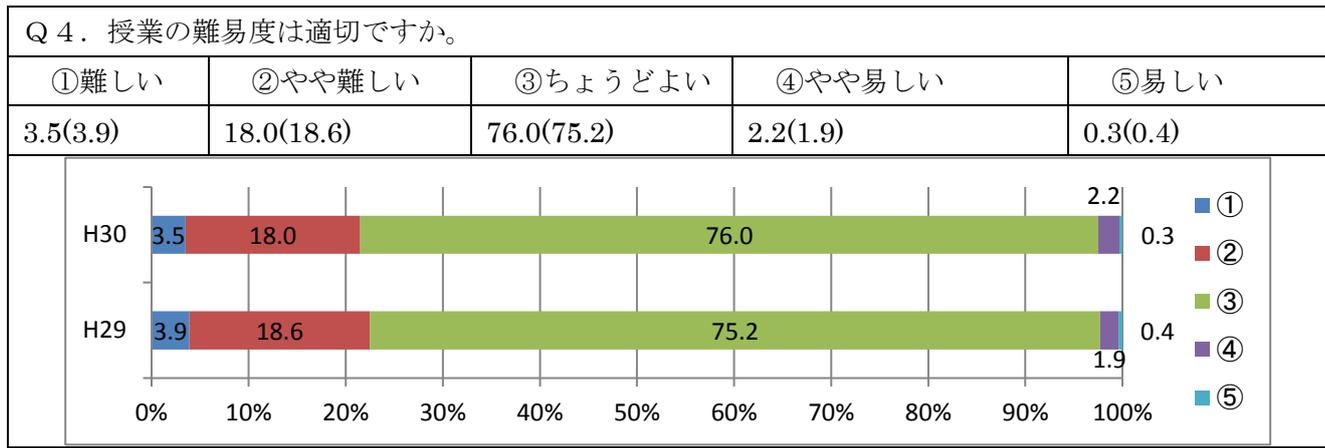
本校では、毎年 7 月に全生徒に対し、全職員・全講座に関する「授業評価アンケート」を無記名で実施し授業改善に役立てています。今年度も座学用・実習を伴う科目用などのアンケート用紙を作成し実施しました。それぞれのアンケート用紙に 6 項目の調査項目と記述部分を設けました。

座学用アンケート項目 6 項目・実習を伴う科目用アンケート共通の 3 項目の全日制・定時制を合わせた結果は下記の通りです。

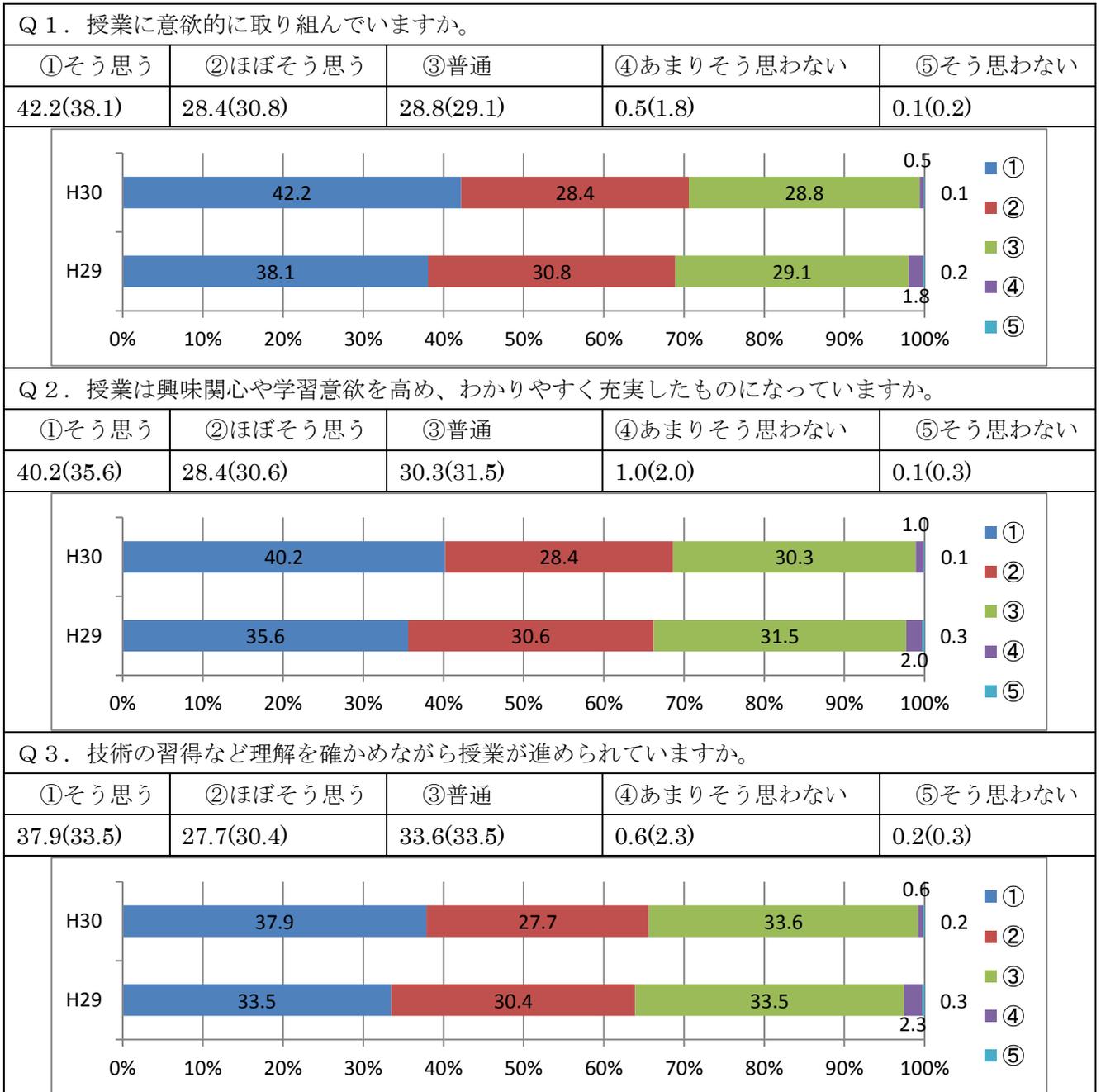
単位は全て%、カッコ内は H29 年度

### 【座学中心の科目用授業アンケート結果】……2895 件





【実習中心の科目用授業アンケート結果】……1748 件



●全日制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

1 分析した内容（教科毎の集計と個人の集計の比較、自由記述から等）

| 教科    | まとめ  |
|-------|--|
| 国語    | ・ Q 1・Q 2・Q 3 を中心に判断すると、日頃の授業改善の取り組みが反映され、良好と思われる。   |
| 地歴・公民 | ・ 多くの生徒からは良い評価をうけている。<br>・ 理解度を確認したり問いかけをするなどしながら生徒が主体的に参加する授業をつくる工夫はしているが、更に取り組みがよくなるように新たな策を模索しなければいけない。 |

|             |   |
|-------------|---|
| <p>数学</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q 4 「授業の難易度」で①「難しい」およびQ 5 「授業進度」で①「速い」を選択した生徒が増加し、③「ちょうどよい」を選択した生徒が12～14%減少した。授業内容に難しさを感じる生徒が増加している。</li> <li>・ Q 1 「授業に対しての意欲的に取り組む姿勢」はおおきな変化は見られない。家庭学習の時間や、予習時間との関連性を考えていきたい。</li> </ul>  |
| <p>理科</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 理科としての集計値をもとに、理科全般の傾向を分析した。</li> <li>・ 生徒アンケートでは各設問とも肯定的な数値が増加している。</li> <li>・ 授業の内容や進度は変えていない。昨年度の反省より、進度が速いこと、目標は大学受験であることを説明し、生徒は理解したことを示している。</li> </ul>   |
| <p>保健体育</p> | <p>&lt; 体育 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業に対して意欲的に取り組んでいるか」の問に対して「そう思う」と回答した割合が50%を越えており、「あまりそう思わない」と回答している割合が1%であることから、生徒が進んで授業に取り組んでいると考えられる。</li> <li>・ 「授業は充実したものになっているか」の問に対して「そう思う」と回答している割合が50%を越えていることから、生徒の高い意欲に十分対応した授業となっていると推測できる。</li> <li>・ 「安全面への配慮がなされていない」と感じる生徒が少なく、安全管理も生徒と共に行えている。</li> </ul> <p>&lt; 保健 &gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意欲的に取り組んでいる生徒の割合が、他教科に比べて高い。</li> </ul>  |
| <p>芸術</p>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ Q 1 概ね、昨年度並みの回答。約8割の生徒が「そう思う」「ほぼそう思う」と回答しており、生徒の授業に対する積極的な姿勢が見受けられる。</li> <li>・ Q 4 昨年度は6割の生徒が「普通」と回答しているが、今年度は4割まで減り、「そう思う」と回答した生徒の割合を増やすことができた。</li> <li>・ Q 6 教員は実技の量が少し多いと感じていたが、9割の生徒が「適切である」と回答している。</li> </ul>  |
| <p>外国語</p>  | <p><b>Q1Q2 (参加意欲等) について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「授業に意欲的に取り組んでいるか」の問に対しては「そう思う」と回答した生徒が25%から30%と増加している。「そう思う」「ほぼそう思う」と答えた生徒は67% (昨年度63%) であり、ほとんどの生徒が意欲的に授業に取り組んでいる。</li> <li>・ 「学習意欲を高め分かりやすく充実した授業になっているか」の問に対して、「そう思う」が34% (昨年度36%) でやや減少しているが、「ほぼそう思う」を合わせると73% (昨年度69%) であり、座学の教科の中では最高値である。習熟度別講座の少人数講座、ICT利用等が効果をあげていると思われる。</li> </ul> <p><b>Q3Q4 (授業理解、小テストなど) について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 数値的には昨年度から大きな変化は見られない。「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた生徒は4%であるが、授業の中の様々な場面でより丁寧な確認作業をしていく必要があるのではないか。</li> </ul> |

|              |   |
|--------------|---|
| <p>外国語</p>   | <p><b>Q5Q6（進度・課題）について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業進度が「速い」「やや速い」と答えた生徒が16%→18%と、昨年度より増加している。逆に「やや遅い」と答えた生徒も1%→3%と増加しているため、生徒の学力幅が広がっていることが推定される。</li> <li>・課題の量についてはほとんどの生徒が「適切である」と解答しており、昨年度から大きな変化は見られない。</li> </ul> <p><b>全体を通して</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の学力も変化しているため、よく生徒を観察し授業改善、教材の選択などを行っていければよい。</li> </ul>   |
| <p>家庭</p>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q1の「授業に対して意欲的に取り組んでいるか」に対しては「そう思う・ほぼそう思う」が64%と3分の2を占めていたこと、その一方で「あまりそう思わない・そう思わない」は0%で、現時点では昨年とは違って皆無となり、今後も生徒のやる気を引き出す教材作りに努めたいと感じた。</li> <li>・Q5の授業の進度を問う質問では、95%の生徒がちょうど良いと答えており、理解度を確かめながら進めて行きたいと思う。</li> <li>・Q6に実技の量を確認する質問については「少ない・やや少ない」が12%を占めており、実習・実験を取り入れた授業展開の工夫を続けていきたいと思う。</li> </ul>  |
| <p>森林環境</p>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年と比較しQ1～3において、「そう思う」（充実している）の比率（%）が増加した。</li> <li>・特に3年生の講座数（アンケート回答数）が1、2年と比べて多く、集計に反映されているが、現在の3年生は森林環境科の内容を良く理解した上で入学している生徒が多く充実している。</li> <li>・昨年と比較し授業計画をしっかりと生徒に明示するように心掛けたので、生徒も取り組みやすくなったと思う。</li> </ul>   |
| <p>インテリア</p> | <p><b>TypeA（座学）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q1 生徒自らの授業への取り組みは5ポイント普通に流れたが、意欲が無い分類には流れていない。</li> <li>・Q2 授業が充実した内容になっているかについては、そう思わない域から良い方向にシフトしている。</li> <li>・Q3 理解を確かめながらの授業進行についても、そう思わない域から良い方向にシフトしている。</li> <li>・Q4 授業難易度についてはちょうど良いが高い割合を占めている。</li> <li>・Q5 授業の進行速度についてもちょうど良いが9割以上を占めた。</li> <li>・Q6 課題の量については概ね昨年同様である。</li> </ul> <p><b>TypeD（専門科実習）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q1 生徒自らの授業への取り組みは、普通を含めた数値が肯定的な方向に多少ではあるがシフトした。</li> <li>・Q2 授業は興味関心や学習意欲を高め充実した内容かどうかは、昨年とほぼ同じである。</li> <li>・Q3 技術の修得など理解を確かめながらの授業進行については、非肯定的な方向へ数ポイントシフトしたが、全体を見れば97ポイント普通以上の肯定的な意見として表れている。</li> </ul> |

|       |   |
|-------|---|
| インテリア | <ul style="list-style-type: none"> <li>・Q4 授業中の安全確保については、普通以上の肯定的意見が全てである。</li> <li>・Q5 授業の進む速さについては昨年より改善が見られているが、生徒作品の大きさにも関係するので改善が不十分とは言い切れない。</li> <li>・Q6 実技の量についてはやや多いが6ポイント上がっているが、特にデザインコースでは課題量を昨年度より最大限絞って実施しているので、生徒の感覚的な数値と判断する。</li> <li>・全体をとおして満足度の高い授業展開・取り組みであると分析できる。</li> </ul> |
|-------|---|

## 2 今後の授業で改善したほうがよい点等

| 教科    | ま と め   |
|-------|---|
| 国語    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・一口に国語といっても、現代文と古典では基本的な中身も違い、学習方法も違う。現代文に比べて、古典は第2外国語に近く、習熟に時間もかかるし、苦手意識も強くなる。センター試験でも個別に見れば一番平均点が低いのは古典であり、本校も同様である。まして受験に必要な講座ではその傾向が強い。考える力を身につけさせる練習として、繰り返し定着させるほかはない。また図書館との連携を考えて進めたい。</li> </ul>        |
| 地歴・公民 | <ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの実施、テスト前の課題プリントなどに改善の余地がある。教員間で意見を<br/>出し合い、取り組んでいきたい。</li> <li>・生徒からは、「どのようにしたら憶えられるか」という質問をうける。</li> <li>・授業によってつけさせる「学力」とは何か、考えていきたい。</li> </ul>   |
| 数学    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・習熟度別授業の展開だけでなく、興味関心や学習意欲を高める授業行っていく。</li> </ul>   |
| 理科    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後も受験対応、実験実習の重視、授業としての補習の実施など現在の方針を継続し、更なる授業改善をおこなう。</li> <li>・年度後半、内容が深まるにつれ、例年、授業アンケートは厳しくなる傾向にある。進度や内容について、自然科学のより深い理解と受験に向けた授業であることを、生徒に伝え、目標として意識させる必要がある。</li> </ul>                                      |
| 保健体育  | <p>&lt;体育&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「互いに協力して活動できているか」という問に対して、「そう思う」と回答する割合を増やすために、授業内でのグループワークや教え合いの時間を充実させていきたい。</li> </ul> <p>&lt;保健&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意欲に対して応えられるような授業内容の充実を図りたい。</li> </ul> |
| 芸術    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでと同様、知識、技術の定着を確認する場を設定していきたい。</li> <li>・自由記述欄には前向きな記述が多かったので、それに応えられるよう教材研究をしていきたい。</li> <li>・割合は数パーセントと少ないが、意欲的に取り組めていない生徒や、難しいと感じている生徒が意欲的に取り組み、知識や技術の習得につながるように、授業を進めていきたい。</li> </ul>                    |

|       |   |
|-------|---|
| 外国語   | <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲を高められるアクティブラーニングが必要である。</li> <li>・理数科のオールイングリッシュの授業（1年）は難易度が高いため、生徒のモチベーションを維持できるよう、目的や見通しをしっかりと示す。</li> <li>・お互いに授業参観や教材の共有をし、ICT やペアワーク・グループワークなど一人ひとりのニーズにこたえられるような工夫をしていく。</li> <li>・声を出す(音読)の時間を多く取る。</li> <li>・ICT 利用により進度が速くなりがちなので、理解を確かめながら進める。</li> </ul> |
| 家庭    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の意欲を引き出す、教師側の努力。</li> <li>・限られた時間と実習費の中で、必修科目にどれだけ実技を入れられるかも、教師側の力量である。</li> </ul>  |
| 森林環境  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・安全確保への配慮の部分を引き続き重視したい。</li> </ul>   |
| インテリア | <ul style="list-style-type: none"> <li>・対策に充分は無いという教訓から、安全に対しての取り組み、配慮を続けてゆく。</li> </ul>  |

## ●定時制 生徒による授業評価 各教科のまとめ

### 1 分析した内容（教科毎の集計、自由記述から等）

- ・定時制全体で見ると、全般的に「③普通・ちょうどよい・適切である」と回答している割合が、昨年度より増加している。特に一般的な座学では全項目で増加した。
- ・Q1『あなたは授業に意欲的に取り組んでいますか。』については、座学では「①そう思う」が19%減少し「③普通」が11%、「④あまりそう思わない」が5%増加していることから、若干意欲の低下が感じられる。
- ・Q2『授業は興味関心や学習意欲を高め、わかりやすく充実したものになっていますか。』 Q3『問いかげや小テストなど理解を確かめながら授業が進められていますか。』については、ともに「①そう思う」の回答が20%以上減少し、「②ほぼそう思う」が20%前後増加している。対象の生徒は毎年変わるので一概には比較できないが、授業の進め方に多少不十分な部分があるのかもしれない。
- ・Q4『授業の難易度は適切ですか。』 Q5『授業の進む速さは適切ですか。』 Q6『課題の量は適切ですか。』では、「①難しい・速い・多い」という回答が15%～20%減少し、すべて0%であった。一方「③ちょうどよい・適切である」が20%～30%増加した。生徒の実態に合わせた内容や速さを考慮しながら授業を進めているため、8割以上の生徒が適切に感じていると思われる。

### 2 今後の授業で改善したほうがよい点等

- ・生徒が興味、関心、意欲を持てる、わかりやすい教材や、授業の進め方など、今後もさらに研究していく必要がある。

## 【まとめ】

授業は、生徒と教師が一体となって作るものです。このアンケートを通じて、生徒は自らの授業に対する姿勢を確認し、教師は自身の授業がどのように受け止められているかを客観的に把握し改善に役立てています。どの学年・どの学科・どのクラス・どの講座でも「授業第一主義」であることを、教師生徒が互いに再確認し、家庭学習も含め、より一層の自律的な学びを目指すよう努力していきます。